

日本橋室町の再生に向けた「着物の似合う街路空間」の提案



H99043 佐藤 搖  
指導教員 岩倉 成志

1. 日本橋室町の再開発の重要性—背景と目的—

日本橋室町は、江戸時代から商業・文化の中心地として栄えてきたが、近年の経済不況、消費者の嗜好の変化から地盤沈下が急速に進んでいる。

日本橋室町(以下室町)は図1に示すように、JR 東京駅八重洲口から北東へ約1kmの好立地に位置し、営団地下鉄三越前駅(銀座線・半蔵門線)、JR 新日本橋駅を最寄駅とする。

近年、丸の内の都市再開発、周辺地域の東急跡地の日本橋一丁目計画、三越「新・新館」計画、室町三井新館計画などにより、室町を取り巻く環境も変化している。この計画により、室町への来街者が増加すると考えられるが、中央通りから横道へ入る横丁(室一仲通り商店街)への回遊は同時に再開発されない限り期待できない。

また、現在室町では多くの老舗、日本橋を勤務地とする人たちが組織する活動団体が存在し、再開発への気運が高まっている。

そのような状況下で、地元住民や活動団体と官民の仲立として「日本橋学生工房」が昨年6月に発足した。私は、これに所属し地元住民とのイベントなどの活動を通して交流を深め、室町の活性化を促す為の街路空間の研究を進めた。

2. 日本橋室町の集客力に関する考察

室町の集客力と集客の阻害要因を明らかにするため、表-1に示す調査を実施した。

1) 来街者数と来街者の声

調査⑤、⑥により来街者は多く、大半は地下道を利用していることが明らかとなった(図-2)。この地下を歩き交う人をどうすれば、地上に引き上げられるかが重要であると考えられる。

また調査⑦より、ヒアリングを行った結果、多くの店舗が休日休業をしており、横丁への回遊が出来ず、買物の幅が狭まり、室町には三越しかないイメージとなっている場合が多い。



図-1 日本橋室町の位置 1/2500 東京都地形図より作成

2) 集客力の阻害要因

室町の集客力の課題を総括すると、「まちを歩く楽しみ、観る楽しみが不足している」「街の特徴が不足している」と言える。前者の課題として、①路上駐車・駐輪・ゴミ等の占有物により、歩行が妨げられている。店舗が死角となる。(図-2)②電線・看板・ペンシルビルによる悪景観。③店舗が不連続で位置が把握しにくい。④店舗の情報発信不足。⑤街路空間においてオープンスペースが確保されておらず緑化率も低い。⑥昼・夜間人口の比率が72:1と差が激しい。図-2から平日の来街者が多いことから、賑わいの時間変動が大きい。また、休日に休業の店はオフィスワーカーを対象としているため、新規需要は見込めない。

後者の課題としては、①対象者が単一で、競争環境となる銀座や上野等の他の商業地との差別化が不十分である。②来街者から、「まちに個性がなく三越しかないイメージ」「最近、百貨店で何でも揃うので老舗(専門店)に行く必要がない」との意見が多く、来街者のニーズ・個人属性の把握不足であると考えられる。③日本銀行・日本橋三越・三井信託銀行本館等の近代建築物や、江戸時代から続くまちであるという歴史的価値が生かされていない。

### 3. 「着物の似合う街路空間」の提案

#### 1) 魅力ある街路を構成する3つの要素

中央通りから横丁へふと入りたくなるためには、①個性的で②歩きやすく、③魅力的な街路空間が望まれる。そのためには、江戸時代からの歴史的文化を打ち出し、観光資源として価値を高めること。そしてそれを実現させるためにも、歩きやすく街路を整備し、年齢を問わず市場を拡大できることが必須であると考える。

#### 2) 具体的な提案

##### I. 賑わいを生む商店街の導入部

横丁に入りたくなるように、各種街路に仕掛けを作ることを試みた。それを図-3に示す。さらに、通り沿いの既存建築物を活かし、着物の似合うまちを整備することを提案する。図-4は、模型による街路及び既存建築物の整備の再現である。

##### II. 車を排除した空間(歩きやすい空間形成)

(I)を実現させるためには、まず室一仲通り商店街から、車両を排除する必要がある。しかし、商店には物資の搬入がある。そのため荷捌きスペース・駐車場の確保等や商店に理解を得なければならない。また、物流 TDM といった社会実験も有効的であると考えられる。

#### 4. 段階的な街づくりの提案

##### 1) 段階的街づくりの重要性

3. に示した提案を実現させるためには、横丁の住民や商店主へのインセンティブを与え、住民と協力して時間をかけてまちを整備していくことが適していると考えられる。そこで、段階型整備を提案する。

##### 2) 第一段階の整備順序の内容

段階型整備の初めとして、以下の順に行うことが有効であると考えられる。

- ・道路占有物の排除
- ・賑わいを生む導入部
- ・既存建物をいかした整備 → 2年以内
- ・江戸町屋を再現した整備 → 5年以内

#### 5. まとめ

日本橋室町のイベント等の活動に参加し、地元住民との交流を深める事により、横丁のまちづくりに「着物の似合う街」を提案した。

今後の課題として、まちの集客力を高めるため住

表-1 調査項目一覧

実施調査項目	実施日(2002~2003)
①土地利用調査	7/上旬 11/上旬
②路上駐車調査	10/20(日)21(月)23(水)
③ゴミ問題調査	10/25(金) 25(金)11/18(月)
④電柱・電線調査	11/19(火)
⑤ピデラ観測による歩行者交通調査	11/23(土)24(日)12/12(木)
⑥地下鉄歩行者交通調査	11/24(日)12/12(木)
⑦回遊行動調査	11/23(土)24(日)12/12(木)
⑧商店主/居住者/来街者へのヒアリング	7/上旬~1/上旬



図-2 時間別来街者数(人)(調査⑤⑥)と路上駐車(②)

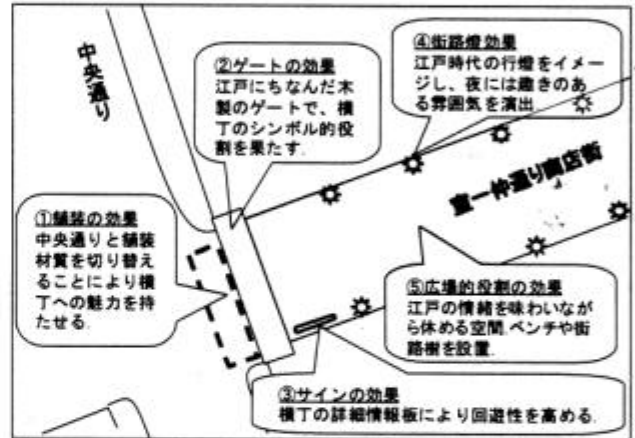


図-3 具体的な提案の図

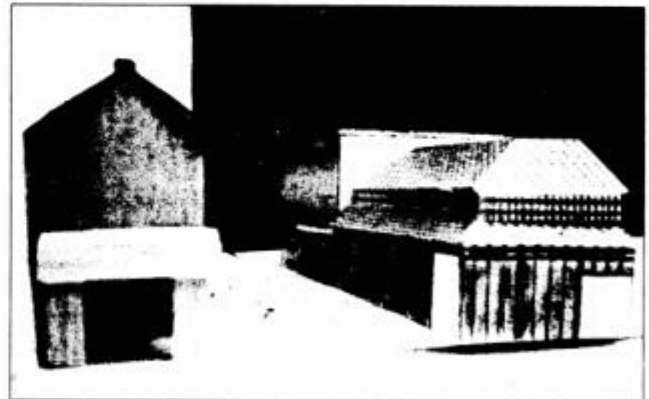


図-4 着物の似合う街路空間の再現

民の理解は必須である。この第1段階整備においても住民と協議を行い行政に提案していきたいと考えている。

謝辞：活動する機会を与えてくださった森地先生、日本橋の皆様、日本橋学生工房のメンバー、アドバイザーの皆様、私を支えてくださった全ての皆様にお礼を申し上げます。